

## 共同研究グループ活動報告 (2014 年度)

### 日中関係史

今年度は、学内共同研究奨励助成「日中関係史の断絶と連続の研究——中国人留学生研究の情報発信源を中心に」の研究活動と、その成果を人文学研究所叢書の一冊にまとめる準備作業に追われる。

他には、次の講演会を開いた。

10月1日、露木順一氏（本学非常勤講師・前開成町町長）「禹王が切り開く日中和解」

共同研究奨励助成「日中関係史の断絶と連続の研究——中国人留学生研究の情報発信源を中心に」、および「東アジアにおける民族主義の歴史的体験とその意味——『プランゲ文庫』を起点に考える」の活動内容については、それぞれの報告を参照してほしい。

長らく代表を務めた大里は、今期で定年退職となる。これまでの皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、グループの研究がますます活発に展開されることを期待する。

(文責 大里浩秋)

### 色彩と文化Ⅲ

#### 1. グループ名「色彩と文化Ⅲ」

#### 2. 新メンバー

小林潔氏（青山学院大学非常勤講師）

#### 3. 研究会

2015年2月または3月に開催予定

#### 4. 講演会

(1) 2014年12月8日(月)

堀見葉子氏（フリーカラーリスト）「色彩を活かす仕事」

(2) 2014年12月9日(火)

堀見葉子氏（同）「色彩の魅力」

#### 5. 海外調査

2015年3月に予定

#### 6. 出版

三星宗雄『色彩の快：その心理と倫理』、御茶の水書房

(文責 三星宗雄)

### 活字文化の研究

#### 1. 共同研究グループ名：活字文化の研究

2. 講演会・研究会の開催：特になし（適宜、メンバー間での情報共有を行った）

3. シンポジウムの開催：特になし

#### 4. 活動内容

(1) 活字を通じた日本語教育と異文化理解（国際）に関する調査・研究

(2) 活字文化普及のための教育・啓発活動（教育）に関する調査・研究

(文責 松本安生)

### 〈身体〉とジェンダー

本年度は以下の日程で研究会を開催した。

日時：2014年7月2日(水) 13:30~14:30

場所：17-216（人文学研究所資料室）

報告者：ジェームス・ウェルカー准教授

報告タイトル：女（性）の「トランスフィギュレーション（変容・変貌・変化）」——1970~1980年代のトランスナショナルに関わった女たち——

あわせて、上記の報告終了後に、叢書の具体的な構成案や、個々のメンバーの研究の進捗状況などを確認した。叢書は「〈68年〉のジェンダー表象」を共通テーマに、2015年度の出版を目指すことが確認された。今年度は叢書のより具体的な内容について議論し、出版の準備を進める予定である。

(文責 村井まや子)

## 自然観の東西比較

2014年度の活動は、下記のとおりである。

### ① 公開研究会

日時：11月19日（水）

場所：17-216（人文研資料室）

報告者と報告テーマ

・伊坂青司「C・D・フリードリヒのロマン主義風景画——その風土性・宗教性・政治性——」

・村井まや子「神奈川大学図書館主催「An Enchanted Forest おとぎ話の森」展の概要と展望」（図書館にて展示の見学と解説）

② 共同研究グループを母体とした文科省大型設備費「自然観を基礎とした文化の東西比較研究コレクション」の図書の受け入れ

③ 共同研究グループを母体とした学内の共同研究奨励の申請とそれに伴うプレゼンテーション  
(文責 伊坂青司)

## 近代都市の表象

1. 共同研究グループ名称：近代都市の表象

2. 講演会・研究会の開催

「〈身体〉とジェンダー」研究グループとの協同により「都市・身体表象の生成とその変容」を主題とする合同講演会・研究会を開催している。同グループの記載と重複するだろうが、開催は以下のとおりである。

研究会：6月24日（火）

発表者：日高昭二

論題：「避暑地の出来事——堀辰雄・軽井沢・リゾート史」

講演会：7月22日（火）

講師：Stamatina Dimakopoulou

論題：「パリのアメリカ人たち——国外在住・共通性・差異」

講演会：7月29日（火）

講師：泉 美知子

論題：「大革命後の宗教建築の表象——19世紀フランスの文化財保護を通して」

研究会：9月23日（火）

発表者：郷 健二

論題：「近代社会の「ファッション」の概念は16世紀イングランドで誕生した？」

研究会：10月28日（火）

発表者：鳥越輝昭

論題：「『ヴィットリアーノ』の外と内——ヴィットリオ・エマヌエーレ2世国立記念堂に見る〈ローマ〉」

研究会：12月16日（火）

発表者：日高昭二

論題：「記憶の地誌／表象の未来——上司小剣『東京』をめぐる」

3. シンポジウムの開催計画

なし

4. 活動内容

近代の東洋・西洋の諸都市の来し方や現況について、表象という切り口から分析を試みている。

数年後に人文学研究叢書を出版することを目標にしている。

(文責 鳥越)

## 越境する比較文化

1. 研究会等の開催

現時点（1月下旬）で、本共同研究グループが開催した研究会・検討会等は次のようである：

① 今年度の国際シンポジウム・国際共同研究プロジェクトのワークショップ（下記2、①参照）に対する反省会、成果考慮会（6月下旬に2回）。

② 2015年度に出版される予定の論文集『*Enmity and Death Across Cultures*』（仮）に関する計画検討会・編集準備会（10月中旬と11月上旬、2回）。

③ 次年度開催予定の国際シンポジウム（下記2、②参照）に関する計画検討会・実行委員会（9月下旬、10月中旬・下旬、11月中旬、12月

下旬の5回)。

また、②と③に類する会は来る2月、3月中にも数回開く予定である。

## 2. シンポジウムの開催

① 2014年6月7・8日に、第4回国際シンポジウム「異文化における死の表象」(Fourth International Symposium on Comparative Culture: “Representations of Death across Cultures”), 並びに国際共同研究プロジェクトのワークショップを開催した。

② 2015年6月13・14日に、第5回国際シンポジウム「なんじの敵を知れ——文化研究の観点からみる敵対意識の力学」(Fifth International Symposium on Comparative Culture, “Know Thine Enemy: Cultural Perspectives on Antagonistic Dynamics”) を開催する予定である。

## 3. 活動内容

上記の国際シンポジウム等を以って、国内・国外に向けて、比較文学・文化の方法論を用いた研究を発表・交流するための「場」として、神奈川大学や人文学研究所の知名度を上げ続けることが本共同研究グループの目的の一つであり、その目標に向かって今年度も活動してきた。また、2015年度に出版される予定の論文集(上記1, ②参照)などによって、広い範囲において比較文学・文化の方法に関する意識を深めるといふ、本共同研究グループのもう一つの目的の達成に向かって活動し続ける予定である。

(文責 クリスチャン・ラットクリフ)

## ヒト身体の文化的起源

### 1. 共同研究グループ名: ヒト身体の文化的起源

### 2. 活動内容

① 人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討した。

I. 特に関節運動を増幅するアキレス腱の屈曲点について調査・研究を進めた。研究内容は2014年4月の4th Congress of the International Foot and Ankle Biomechanics Community (韓国・釜山)で「Uncover

the identity of obstruction on the Achilles tendon」と題する一般発表を行った。

II. アキレス腱の機能的意義を調べる一貫として、2015年2月中旬にチェンマイ大学医学部解剖学教室および献体手術研修センターを訪問し、ヒトアキレス腱の物性値を新鮮献体と固定献体で測定評価する予定である。

(文責 衣笠竜太)

## 帝国とナショナリズムの言説空間

### 1. 研究会の開催

第1回: 日程: 2014年7月2日(水)午後4~6時

場所: 17-401号室

(横浜キャンパス・人間科学部社会コース共同研究室)

講師: 久田和孝氏(本学外国語学部助教)

論題: 「現代韓国の「反日」「先進」「文化」を巡る言説空間: 政治学の視点から」

第2回: 日程: 2014年12月3日(水)午後4~6時

場所: 17-401号室

(横浜キャンパス・人間科学部社会コース共同研究室)

講師: 山本博史氏(本学経済学部教授)

論題: 「タイ、民主主義の「かたち」: 非植民地国家の権力構造への一考察」

### 2. 活動内容

今年度に採択された神奈川大学共同奨励研究助成金「帝国とナショナリズムの言説空間: 国際比較と相互連携の総合的研究」と同時並行で進めている共同研究グループである。2015年3月中旬には、国立フィリピン大学アジア研究センターから研究者を招聘して学内でセミナーを開催する予定である。

(文責: 永野善子)

## NCH 新聞研究会

昨年度より始動した本研究会は、本学が所蔵する NCH (North China Herald) の新聞 (ONLINE 版) の日本、中国、韓国、東南アジア諸国に関連する新聞記事を順次読んで行くことを計画し、6 月には第 1 回の研究会を開催することができた。

### 1. 第 1 回 NCH (North China Herald) 新聞研究会

日時：2014 年 6 月 4 日 (水)

場所：神奈川大学・横浜キャンパス 17 号館  
216 室

報告：

- (1) 研究会の結成について
- (2) オンライン版 中国英字新聞コレクション——「ProQuest Historical Newspapers: Chinese Newspapers Collection 1832-1953」のご利用講習会
  - ・ ProQuest による概要説明 20 分
  - ・ 雄松堂による操作説明 30 分
  - ・ 質疑 10 分

### 2. 2015 年度にも引き続き、

- (1) NCH 関連の研究会、
- (2) NCH 関連の資料調査——上海、ロンドン、
- (3) NCH の輪読会、を中心に活動して行く。  
(文責 孫安石)